

園長先生の子育てひろば

令和7年9月

世界の中の日本を知る

園長 堀田 あけみ

まだまだ暑い日が続いていますね。でも、気が付くと日が短くなっていたり、赤トンボが飛ん
でいたり、確実に秋の気配が濃くなっています。秋は、幼稚園にとっても運動会や展覧会（椋山
幼稚園では「アートギャラリー」と呼んでいます）をはじめとする大きな行事が目白押しの季節
です。日々の暮らしの中でも、お彼岸やお月見と言った伝統的な行事があります。幼稚園でもお
月見団子をみんなでいただきます。尾張地方独特の、しずくの形（一説には、里芋の形だそうで
す）のお団子です。東京出身の夫から「団子じゃないじゃん」と言われました。

幼稚園では、日本の伝統的な行事にも力を入れています。英語やプログラミングと言った先端
教育との両立ですね、と言われることが多いのですが、実は日本語と日本文化を身に着けること
も先端である、と私は思っています。大学教員との兼任である私の所属は「外国語学部 国際教
養学科 国際日本コース」です。多くの学生が留学を経験します。他大学ですが、自身の娘も半
年の間、日本を離れました。そのように公私で、学生を送り出して迎え入れる経験を重ねると、
海外での友人に恵まれるのは、日本語の運用に優れた、日本の文化をよく知る学生だということ
がよくわかります。他国の学生が日本人と友達になりたいと思うのは、日本の文化や言葉につい
て知りたいからなので、自国の文化についてよく知らないと話していてもつまらない人だと思わ
れてしまいます。留学生を受け入れてくださる大学には、各国からの学生が集まりますので、多
国籍の友人を獲得して帰国する学生もいます。逆に現地で友達ができないと、日本人同士で一
緒に行動してしまい、せっかく行ったのに寂しいね、という結果になることもあります。

また、外国語の習得レベルは、第一言語の能力を越えないという研究が発表されています。大
学の授業でも、入学当初は会話を楽しんでいた学生が、論文を読んだり書いたりする段階で躓く
ことがあります。私の周囲の学生は、英語以外の言語にはまっていることが多く、そうするとそ
れぞれの言語の背景にも触れることになります。他の文化に興味を持つことで得た教養をもって
その国で生活し、充実した時間を過ごして戻る学生たちをみていると、グローバルゼーションと
は、言葉ではなく文化の相互理解に支えられているものだということがよくわかります。

幼児期に、絵本や紙芝居で美しく楽しい日本語に触れたり、日本の文化を知ることは、大切
な経験です。椋山幼稚園には「えほんのへや」があり、ゆったりした環境の中、親子で絵本を楽
しむことができます。土曜日には外部にも開放されておりまして、お近くの方、一度いらして
はいかがでしょうか。お子さんの好きな本や、季節の行事に関連する本を快適な環境でおたのしみ
いただけます。読み聞かせの時間もありますよ。園の行事によっては、閉室することもあります
ので、ホームページでご確認の上、おいでください。